

学校教育目標  
重点目標

「つながろう やりぬこう」  
「すすんで やる子」

子どもたちの心を耕す

校長 望月 秀一

毎日、厳しい寒さが続いています。玄関に飾られた蠟梅の香りが、大寒の寒さを和らげてくれています。(蠟梅の花は、渡邊富士夫さんが届けてくれました。)

現在、市内の各小中学校では、インフルエンザが猛威をふるい、学級閉鎖が広がっています。本校では、保護者の皆様のご理解とご協力のもと、インフルエンザにかかった児童は 10 名、流行性耳下腺炎も一部の児童に発症していますが、全体への拡がりには至っていません。今後も、「うがい・手洗い・マスク着用」を励行し、乗り切っていきたいと思えます。各家庭におかれましても、先月に引き続き、朝の検温とうがい・手洗いをお願いします。

昨日の授業参観は大勢の方にご来校いただき、子どもたちの成長の一端を見ていただけたのではないのでしょうか。また、昨夜の雨の中、PTA 現新役員会にご出席いただいた皆様、ありがとうございました。今年度の反省を基に、来年度の引き継ぎをよろしく願いいたします。

学校では、来年度の教育課程編制会議(どのように学校を運営していくかの検討会)を行っています。児童・保護者・学校評議員・職員のアンケートから、子どもたちにより良い教育活動をすすめていこうと様々な視点から協議しています。

来年度は、子どもたちの心を耕す中で、主体性と相手を理解する心を育てていきたいと考えています。1年生の時からほぼ固定化された仲間の中で子どもたちは生活しています。自分の良さが発揮できなかつたり、お互いの見方が片寄ってしまったたりして、良好な人間関係づくりが課題であると考えます。困っていることを共感したり、頑張っていることを認め合ったり、仲間と目標に向かって高め合ったり、相手の良さを認め、互いを尊重し合える学級・学校づくりを目指していきたいと思えます。その日々の積み重ねが、いじめに向かわない態度や心を育てることにも繋がっていくと考えます。子どもは、自分のことを分かっしてほしい。認めてほしい。期待に応えたい。そんな思いをもっています。その思いを受け止める大人の存在が大切になってきます。

子どもたちの思い(心の声)を、学校はもちろんのこと、家庭や地域でも受け止めていただき、心豊かな子どもたちになるよう、一緒に育てていければと思えます。

30日、3年生と一緒に、今宮へ学区探検に行ってきました。いつも大変お世話になっていす、今宮仲よし会の高瀬 清さん、川口悦治さん、渡邊 章さんに、昔、水がない中で井戸を使って生活した話を聞き、井戸の場所を案内してもらいました。また、かぐや姫の媪(おうな)が祀られている今宮浅間神社では、神聖な空気が漂う神社の拝殿に上げてもらい、川口さんから平安時代(806年創建)に建てられたことや火祭りの由来についての話を伺いました。どの子も真剣な表情で、本物にふれながら地域の歴史について学ぶことができました。3名の方から、「大人になっても、自分の地域を大事にしてほしい。この浅間神社を守ってほしい。」と地域の方々の願いを知り、子どもたちも地域の期待に応えようと、思いを新たにしていました。

2月は“逃げる”と言われるくらい、足早に日々が過ぎていきます。感謝の気持ちを伝えることや、来年度に向けての引き継ぎの季節でもあります。節目を大切にしながら学校生活を送りたいと思えます。今月も、ご支援、ご協力をよろしく願いいたします

